

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 23 日現在

機関番号：32507

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531080

研究課題名(和文) 幼児の図形による見立ての描画表現 年齢、環境、性差からの検討

研究課題名(英文) Children' expression of diagram interpretations through drawing: An investigation in to age, environment, and sex

研究代表者

島田 由紀子 (Shimada, Yukiko)

和洋女子大学・人間社会学系・准教授

研究者番号：80369397

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：幼児の描画表現の創造性と想像性について明らかにするために、図形を提示し何かに見立て描き表すよう教示し描画収集を行った。調査対象は、日本と日本とは色彩使用が異なると考えられるチェコ共和国の幼児・小学生である。調査の結果、両国とも 幼児よりも小学生の方が男女とも図形の見立てが成立した絵を描くこと、女児の方が見立ての描画の成立数が多い傾向にあること。年齢、性別を問わず、図形の色は見立てに影響しないこと。日本では幼児によっては図形を活かした独創性が、チェコでは類似した表現がみられる傾向がみられた。このことから、描画表現のイメージや創造性には、年齢、環境、性差に加え、保育や教育の影響が示唆された。

研究成果の概要(英文)：To investigate the creativity and imagination involved in children'expression through drawing,they see diagrams,instructed them to draw their interpretations of these diagrams,and collected the resulting drawings.The subjects of this study were kindergarten and elementary school in Japan and the Czech Republic.The usage of colors is different from Japan in Czech. The results of the study showed that,;1)regardless of sex, elementary-school children tended to produce a greater number of drawings in both countries;2) girls tended to produce a greater number of drawings;3)regardless of age or sex, colors of the diagrams did not influence the interpretations;4)japanese children' originality in utilizing the diagrams to be similar to Czech children' expressions a tendency was also observed.These results provide suggestions about how childcare and education,along with age,environment,and sex,influence the creativity and imagination involved in expression through drawing.

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：幼児 描画 見立て 年齢 性差 環境 創造 イメージ

1. 研究開始当初の背景

(1) 描画発達の先行研究

これまで幼児の造形発達の研究の中心は描画研究であり、Lowenfeld.V(1903~60)をはじめ、特に自由画の発達研究が多くみられる。Kellogg.R(1969)は40カ国の子どもの描画を収集し分析を行っているが、着目されたことは発達段階ごとに出現する形の分類であり、環境や性差による影響については焦点が当てられていない。最近の国内研究では、平田(2003)が描画に表される人物の出現には性差があることを指摘しているが、環境による検討は行われていない。増田(1998)は日本とアイルランドの小学生の描画の比較研究を行ったが、日本と社会的文化的背景が似ている前提での比較であったことから、環境の影響には言及していない。想像し創造することや表現することには、年齢、環境、性が大きく影響するにもかかわらず、この3つの要因を含めた調査研究が少ない。

(2) 描画の調査方法の検討

多くの描画研究では、1回の調査につきひとり1枚の描画収集、内容は自由画が中心である。自由画には幼児の自由な発想が表現されているが、近年ではアニメやキャラクターが描かれることも少なくないことから、真に幼児が自由なイメージで表現されているか疑問も残る。さらに、ひとり1枚の描画の収集による判断よりも、複数の作品の収集を試みる方が、より実態を把握することができる。

(3) これまでの見立てを用いた描画調査

図形による見立ての描画研究では、上野(2001)によって小中学生を対象に図形1種類の見立ての描画調査を実施している。また幼児の発達段階ごとの見立てに関する研究や実践報告は教員や保育者らによって数多くの書籍(1984 花簾 他)や先行研究(1990 大澤 他)で知ることができる。しかし、見立ての成立数が大きく変化する4歳から5歳(島田 2008)は対象としていない。申請者は「幼児の図形の見立てと描写」(平成20年度文部科学省 東京都教育庁の「乳幼児期からの子ども教育プロジェクト」の一環で、「乳幼児期からの発達を支える教育文化を考える会」の一員として造形表現を担当)について、幼児の4歳から5歳にかけての図形の見立ての伸び、図形とイメージの結びつき、図形からイメージした描画表現には、保育環境や性差によって異なる傾向や特性がみられると報告した(2008 島田)。より環境が整った園(施設)の方が、4歳から5歳の見立ての描画の成立数目覚ましく、描画表現の特徴にも違いが認められたことから、社会や文化、教育形態といった、幼児を取り巻く環境が大きく異なる地域との比較検討により、さらに環境の影響を確認することができる。そこでチェコ共和国(以下、チェコ)との比較を試みたい。チェコでは、日本の幼稚園教

育要領や保育所保育指針、小学校指導要領にあたるものがないこと、チェコの幼児の自由画には主に生活場面が描かれており、日本の幼児の自由画にみられるマンガやゲームの影響はほとんどないこと(2002 島田)、日常において性による色彩の使い分けが日本のようにはされていないこと(2010 島田)から、日本との比較に適していると考えた。

2. 研究の目的

日本とチェコの幼児に複数の図形を提示し、図形から何かをイメージし見立て、描画にする、という調査を行うことで、幼児の見立てによるイメージする力と、創造する力の実態を把握することを目的とする。

4歳から8歳までの子どもを対象に、環境、性差から、以下の観点で比較検討をする。

提示する図形三角丸四角(以下、)による見立ての成立数から、見立てを理解し、イメージした事柄を描画に表すことができるかがわかる。

見立ての描画表現の内容(モチーフ)描画内容を動物、食べ物、乗り物などのカテゴリ一別の出現頻度から特徴をみる。

図形の形による描画表現の影響について知る。図形の形ごとに、描画内容や描画表現の特徴(図形の内側に描くなど)を把握する。

図形の色彩による描画表現の影響を知る。図形の色彩による、描画内容や描画表現への影響を把握する。

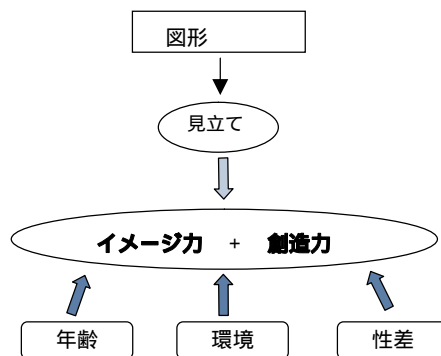


図1 本研究での幼児の発達に応じた検討要因

3. 研究の方法

本研究は平成20年度に4、5歳児を対象にした「幼児の図形の見立てと描写(文科省委託研究)」(2008 島田)を基に、幼児や児童を対象に日本とチェコの幼稚園、保育所、幼保園に加え、小学校においても調査を実施した。

(1) 調査方法

1対1の対面調査。幼児に調査用紙を提示し、何かに見立てて描画で表すよう教示した。描き終わったら、何を描いたのか質問し、描画の近くに記録した。

(2) 調査用紙：図形 (各6個)を印刷したA3の調査用紙を3パターン作成した。

図形 の線画が黒
図形 の線画に色彩がついたもの
(青・黄・ピンク)
図形 の図形の面に色彩を塗ったもの
(青・黄・ピンク)

色彩をピンク、青としているのは、日本とチェコの子どもの色彩嗜好調査で「男の子色として青」「女の子色としてピンク」が両国とも上位にあったからである(2001 島田)。
(3) 描画材として黒のサインペンを使用した。

また、図形から見立てる際に、形と色からのイメージや連想が影響することが予想されたため、図形からの連想、色彩からの連想についても調査を行った。

4. 研究成果

(1) 日本

日本の幼稚園、こども園、保育所の同一園で継続して調査を実施し、園ごとの共通性や特徴を明らかにしようとした。見立ての描画への取組み数や成立数には、園によって変動がみられた。常に高い、あるいは低い成立数というわけではなかった。造形活動の経験や遊びの内容など、日常の保育活動の影響も示唆された。

自由画の男女の描画の特徴と異なり、男児でも「花」を描いたり「ひと」の顔を描いたりする幼児もおり、女児でも「車」「自転車」といった乗り物が少なからずみられた。自由画に多くみられたキャラクターやテレビアニメの影響は少なく、幼児が考えた「ひと」や「動物」の顔などが多くみられたこと。自由画とは異なり、ある種の制限(課題)があると、男女の描画表現の特徴は少なく傾向がみられた。また、自由画ではないにもかかわらず、その幼児が図形からイメージしたものを描き表すことにつながる、その幼児なりの創造性がうかがえた。

図形の線画や面の色には、見立ての影響はほとんどなかった。見立てをするとき、色よりも形が優先することも考えられたが、図形の色(青・黄・ピンク)はイメージするのが難しいことも推測された。

日本の小学校でも同様の調査を行ったところ、低学年ではまだ見立ての成立が難しい児童もいる一方、高学年になると、自分なりの表現を積極的に表そうとする児童も少数ではあるがみられた。描画表現に対する技術力の違いや好悪が少なからず反映されていることが考えられた。

(2) チェコ

チェコの幼児、児童については、提示する図形の面に色を塗った場合の図形の見立ての描画について分析を行った。調査対象の年齢に偏りがあったため、全学年に対する調査結果を得るには至らなかったが、図形の面に色を塗っていても、形を優先して見立てる描画が多いことがわかった。色(青、黄、ピンク)からイメージできるものが少ないことも

影響していることが考えられた。

(3) 描画表現と連想による言葉の表現

描画の見立てには描写力を要するので、それを排除した場合には、図形からどのような連想が導きだされるのか調査を行った。その結果、描画表現数よりも連想したことばによる回答数の方が少なく、描く行為によってよりイメージが広がることが示唆された。

(4) 今後の課題

チェコの隣国でも同様の調査や、造形活動や表現について調査を行っているので、検討し、イメージや創造性について、年齢、性差、環境差についてさらに検討を深めたい。

図形の色については、見立てには影響しなかったものの、3色のみであったことから、再度色の検討を行い、調査を行う必要がある。

調査をする中で、日本とチェコでは保育や教育方法が違い、保育者が描画活動に求めるものや活動のねらいも異なる場面があった。たとえば日本では、ひとりひとりの子どもの思いや表現を大切にすることに重きを置くが、チェコでは線をまっすぐに描くことやきれいな曲線を描く練習を行い、文字を書くことにつなげるなど、活動の目的や見通しが異なる。したがって、今後は保育者の描画活動に関する考えや活動のねらいを把握することで、幼児のイメージや表現との関係に着目する必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

島田由紀子 大神優子 色見本提示からの保育系女子学生の連想語 日本美術教育研究論集 第47号 2014 91-98 査読有

島田由紀子 幼児の図形からの見立て描画にみられる初発反応 和洋女子大学紀要 第54号 2014 97-108 査読有

島田由紀子 大神優子 図形提示による子どもの連想 - 4・5歳児クラスを対象に 美術教育学 第34号 2013 231-242 査読有

島田由紀子 チェコ共和国の子どもによる図形の見立て(2)描画の特徴と性差 和洋女子大学紀要 第53号 167-178 2012 査読有

島田由紀子 幼児は図形を何に見立てるのか 図形の面に色を塗った場合 日本美術教育研究論集 第45号 2013 27-34 査読有

島田由紀子 チェコ共和国の子どもによる図形の見立て - 図形の面に色彩を塗った場合 和洋女子大学紀要 第52号 2012 129-139 査読有

島田由紀子 幼児の図形による見立て描画発達に関する継続調査の比較 日本美術教育研究論集 第44号 2012 35-42 査読有

(島田由紀子)

研究者番号：80369397

〔学会発表〕(計 7件)

島田由紀子 大神優子 色見本提示からの女子学生の連想語 第47回 日本美術教育研究発表会 東京家政大学 2013.10.20.

島田由紀子 子どもの図形の見立て 初発反応のモチーフとその特徴 日本保育学会第66回大会 中村学園大学 ポスター発表 2013.5.11.

島田由紀子 幼児の図形による見立て 描画発達に関する継続調査の比較 第46回日本美術教育研究発表大会 口頭発表 東京家政大学 2012.10.14.

島田由紀子 大神優子 色名からの子どもの連想語 日本色彩学会第43回全国大会 口頭発表 京都大学 2012.5.26.

島田由紀子 チェコ共和国の子どもによる図形の見立て-3歳から6歳を対象とした図形の面に色を塗った場合- 日本保育学会第65回大会 東京家政大学 ポスター発表 2012.5.4.

島田由紀子 幼児の図形による見立て 描画発達に関する継続調査の比較 第45回日本美術教育研究発表大会 口頭発表 東京家政大学 2011.10.16.

島田由紀子 幼児が図形を見立てるときの色と形が及ぼす影響 日本保育学会第64回大会 玉川大学 ポスター発表 2011.5.22.

〔図書〕(計 1件)

造形表現・図画工作 磯部錦司編著 建帛社 2014 8-11,30-31,88-89,92,140-141,143

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者